

令和元年度
外部評価報告書

令和2年3月

八街市行財政調査会

1 外部評価の目的

八街市が実施する行政評価において、行政内部による事務事業評価に外部の視点を加え、評価における客観性や透明性を確保し、事務事業の改善を推進することを目的に外部評価を実施しました。

2 外部評価員の構成

八街市行財政調査会の職務に基づく外部評価であり、八街市行財政調査会委員名簿は以下のとおりです。

八街市行財政調査会委員名簿

役職名	氏名	所属等
会長	関谷 昇	学識経験者（千葉大学教授）
副会長	京増 良男	学識経験者（元八街市監査委員）
委員	治部 登美子	市民代表（市民団体共同代表）
委員	玉川 寛治	公募委員
委員	嶋田 文博	学識経験者（元高等学校教諭）
委員	今井 誠治	学識経験者（元八街市職員）

3 外部評価の流れ

（1）評価対象事務事業の選定

今年度の外部評価では、行財政改革に関する計画である「第2次八街市行財政改革プラン」から、現在の進捗状況等を考慮したもの（9項目）、また過去に「外部評価」の対象となり実施した中から、現状で課題があると考えられるもの（4項目及び重複・関連事業5項目）を候補とし、調査会において5項目を選定しました。

(2) 担当課ヒアリング及び評価作業

①事業概要等の説明

担当課から事業概要の説明を受け、事業の内容、課題・問題点等を把握しました。

②質疑応答

事業概要の説明や資料から読み取れない部分は、「質問書」によるやりとりや、質疑応答により疑問点等を解消しました。（質疑応答終了後、担当課は退席。）

③評価

ヒアリングの結果を踏まえ、各事業の今後の方向性等について委員間で議論し、評価を行いました。

4 会議の開催経過

令和元年度八街市行財政調査会の開催日及び主な内容は、以下のとおりです。

令和元年度八街市行財政調査会の会議日程

開催日		主な内容
第1回	令和元年 8 月 2 1 日 (水)	・外部評価の進め方とスケジュールについて ・外部評価対象事務事業の選定方法について
第2回	令和元年 9 月 2 6 日 (木)	・外部評価対象事務事業の選定
第3回	令和元年 1 1 月 1 9 日 (火)	・担当課ヒアリング及び評価作業 番号 1 定員管理の適正化 番号 2 組織・機構の見直し
第4回	令和 2 年 1 月 2 9 日 (水)	・担当課ヒアリング及び評価作業 番号 3 民間委託等の推進 番号 4 人材育成の充実 番号 5 電算システムの更新、再編
第5回	令和 2 年 3 月 2 4 日 (火)	・外部評価報告書の提出

5 外部評価の結果

事業の方向性を、「事業継続」、「事業廃止・休止」、「事業完了」の中から判定しました。

また、「事業継続」と判定した事業については、さらに「拡充」、「現状維持」、「見直し・改善」、「縮小」の中から判定を行いました。

この結果、以下のとおり、2つの事業を「事業継続」で「拡充」、3つの事業を「事業継続」で「見直し・改善」と評価しました。

なお、個々の事業の評価の過程における委員の主な意見、事業の方向性に関するコメントは、4頁以降に掲載した「令和元年度外部評価結果」のとおりです。

令和元年度 外部評価結果（概要）

番号	事業名	担当課	外部評価結果	主な意見等
1	定員管理の適正化	総務課	事業継続 - 見直し・改善	P4
2	組織・機構の見直し	総務課	事業継続 - 見直し・改善	P5
3	民間委託等の推進	社会教育施設 社会体育施設 担当課	事業継続 - 拡充	P6
4	人材育成の充実	総務課	事業継続 - 拡充	P7
5	電算システムの更新、再編	システム 管理課	事業継続 - 見直し・改善	P8

令和元年度外部評価結果

番号	1
事務事業名	定員管理の適正化
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正管理や定員の見直しは総務や企画部門が中心となって検討するものと思うが、他の部局と比較して人数が限られていることから、なかなか検討が進まないのではないか。 ・ 権限委譲等により、どんどん増大していく業務について見通しが立てられない限り、定員管理のプラン化は難しいと思われる。 ・ 「定員管理計画」は、基本的に人件費を減らすことを主眼に置いたものと思われるが、それだけではなく全体の業務量を減らしていくことも考えていかないと適正化にはならないのではないか。 ・ 本来であれば、すでに業務委託や指定管理、事務事業の見直し等を踏まえて進めていなければならない段階である。 ・ 正職員以外にでも任せられる事務が、どの程度あるのかを見直してみないと、定員管理上、最低限必要な職員数を定めるのは難しいのではないか。 ・ 人件費が安価な再任用職員を活用することが鍵になってくるのではないか。 ・ 「このままだと人口減少で破綻してしまうかもしれない」、「職員がこのままだとパンクしてしまうかもしれない」という、はっきりとした危機意識を持つ必要がある。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr/> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「定員管理の適正化」と「組織・機構の見直し」は密接しているため、一緒に考えることが重要であり、総合的な調査・検討を専門に行う部署を立ち上げながら進めていく必要がある。 ・ 現状では業務内容の精査という部分が圧倒的に弱いため、業務ごとにどのようなバランスの中でやっていくのが最適なのか調査・研究していく必要がある。 ・ 業務遂行状況や組織のバランスによって、職員にどのような負担やしわ寄せが起きているのか精査するために職員の意見を吸い上げ、内部改革をしていく必要がある。 ・ 今後の市行政の根幹に関わるような部分であるため、早急に進めていく必要がある。

令和元年度外部評価結果

番 号	2
事務事業名	組織・機構の見直し
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗に定員を減らして組織をスリム化していただくと職員がついてこない、あるいは成果が上がらないことにつながるため、改革の進め方が大事であり、職員のやる気を引き出していくということと併せて改革を進める必要がある。 ・ 特定の部署だけに担当を置くのではなく、全庁的に考えることが必要である。 ・ どういうことが住民サービスの向上につながるのか、どういうことが働きやすさを生み出していくのかなど、総合的に考えていくことも重要である。 ・ 質の問題も含めて早急に改善が必要である。
事業の方向性	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 </p> <hr/> <p> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 </p> <hr/> <p> <input type="checkbox"/> 事業完了 </p>
事業の方向性に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「定員管理の適正化」と「組織・機構の見直し」は密接しているため、一緒に考えることが重要であり、総合的な調査・検討を専門に行う部署を立ち上げながら進めていく必要がある。 ・ 現状では業務内容の精査という部分が圧倒的に弱いため、業務ごとにどのようなバランスの中でやっていくのが最適なのか調査・研究していく必要がある。 ・ 業務遂行状況や組織のバランスによって、職員にどのような負担やしわ寄せが起きているのか精査するために職員の意見を吸い上げ、内部改革をしていく必要がある。 ・ 今後の市行政の根幹に関わるような部分であるため、早急に進めていく必要がある。

令和元年度外部評価結果

番号	3
事務事業名	民間委託等の推進
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理という踏み込んだ話ではなくても、図書館、中央公民館、郷土資料館は同じ敷地にあるため、3施設の管理をまとめることで、コストダウンになり得るのではないかと。 ・ 指定管理に関して非常に消極的であり、またコストカットに比重が置かれ過ぎている印象がある。指定管理には住民サービスの拡充という視点も重要である。 ・ 社会体育施設については、単に施設管理という視点だけではなく、施設を利用することによって、どのように活動を高めていくことができるのか、ソフト面を含めた在り方を考えていくことが必要である。 ・ 図書館については、指定管理で公共図書館を運営することは賛否両論ある。プラス面では、従来とは違う利便性を高め、今のニーズに合った資料の充実を図っていくことができるが、他方面で、ニーズの低いものは充実しないということになれば、公共の図書館としての役目が減じられてしまうことにつながる。 ・ 公民館は、まちづくり部門との連携が圧倒的に弱い傾向がある。まちづくりの拠点機能の繋ぎ役として公民館の在り方を捉え直していく必要がある。その中で、民間委託について、包括的な検討をされたい。 ・ 郷土資料館は、他施設と同一敷地内に限らず、点在していても良いわけであるし、機能性を高めていくような配置のあり方や包括的な管理委託の可能性はないのか。
事業の方向性	<p>■ 事業継続</p> <p style="padding-left: 20px;">■ 拡充 □ 現状維持 □ 見直し・改善 □ 縮小</p> <hr/> <p>□ 事業廃止・休止</p> <hr/> <p>□ 事業完了</p>
事業の方向性に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的に消極的であるし、手法的にもコスト削減に特化している印象を受けた。このため、民間委託を本格的に検討するまでに至っていない状況である。組織の在り方にも関わってくる話でもあり、方向性を模索していく中で、どういう可能性が膨らむのかということを検討していただきたい。 ・ 指定管理よりは業務委託でやっていくというのもわかるが、指定管理あるいはそれに類する手法により稼働率を高めることも検討されたい。 ・ 図書館については、単独で集められる資料量は限られているため、ネットワークを充実し、大学図書館や近隣の図書館と連携し、貸し出し、閲覧できるように図書館機能を高めていくというようなことを含めて考えていく必要がある。

令和元年度外部評価結果

番 号	4
事務事業名	人材育成の充実
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場内研修（知識を持つ職員から学ぶこと）は、積極的に進めるべきである。 ・ 職員の研修費においては、コストカットを考えるとなく費用をかけるべきである。 ・ 現状、研修は縮小傾向にあると思われ、また各課も職員を推薦しながらないと思われる。そのような環境の中で、職員が研修参加について手を挙げづらい状況なのではないか。職員個人の意識で解決する問題ではないため、環境整備が必要である。 ・ 人材育成については、業務全体のバランス、個人の能力、職員研修、人事評価を総合的に考えるべきである。
事業の方向性	<p>■ 事業継続</p> <p style="padding-left: 20px;">■ 拡充 □ 現状維持 □ 見直し・改善 □ 縮小</p> <hr/> <p>□ 事業廃止・休止</p> <hr/> <p>□ 事業完了</p>
事業の方向性に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修は、費用をかけてもさらに充実させるべきである。 ・ 研修環境を整備することにより、職員意識の醸成や自主研究活動につながっていくことが期待されるため、拡充すべきである。 ・ 各部署が忙しい状況の中、多くの職員が研修を受けることができないという認識があるということなので、1日の研修だけでなく複数日に渡る研修にも参加できるように環境を整える必要がある。

令和元年度外部評価結果

番 号	5
事務事業名	電算システムの更新、再編
委員の主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ システムを活用しながら、職員一丸となってペーパーレス化を推進してもらいたい。 ・ 市としてマイナンバーカードの空き領域を活用できるよう、研究することが必要である。 ・ 令和元年房総半島台風に伴う長期の停電のときにもシステムが稼働し続けたということは重要なことであり、評価できる。 ・ 事業担当課からは、特別な何かを進めていきたい、何かを進めなくてはいけないといった考えは、あまりなさそうに感じた。
事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業継続 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し・改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <hr/> <input type="checkbox"/> 事業廃止・休止 <hr/> <input type="checkbox"/> 事業完了
事業の方向性に関するコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の考え方や計画について、強引に、あるいは無理にという印象はなかったため、前向きに捉え、見直すべきところも含めて今後も改善できるところは改善を図っていただきたい。